



サークルの星!

キラッと光るサークルや
活躍する学生をクローズアップ!

演劇部いろは団

ユニークな部員一人一人が持つ
個性を生かした公演で楽しませる

まさに粒ぞろいの個性派という言葉が似合う部員たちから成る演劇部「いろは団」。創部から30年を超える伝統を誇ります。定期公演に向けた普段の活動は基礎トレーニングから始まり、腹筋や体幹の筋トレ、発声や滑舌の練習を反復。そのかいあって、演劇初心者の部員もスムーズに台本を読めるようになるそう。そして何より、部員たちは普段から楽しむ気持ちを大切にしています。台本の読み合わせの合間にも笑顔が目立ち、遊び心を忘れません。大きな目標となるのは、一般客を受け入れる夏公演です。2年次ながら座長を務める植西天真さんは、昨年の夏公演で音響を担当。今年は初めて舞台上がる予定です。「昨年は舞台袖から、先輩の演技を



ワクワクしながら見ていました。今年はやっと出演できるので、とても楽しみです」。舞台上での公演に情熱を注ぐ部員もいれば、音響や照明、脚本、舞台衣装など、裏方として舞台を支えたい

現在は夏公演に向けて毎日稽古を重ねています！
演劇としてのクオリティを高めることはもちろん、
部員の個性が光る楽しい舞台が目標です。

と入部する部員も多いそう。「舞台上がる人もそうでない人も、みんな個性があるからこそ、公演も楽しくなります。そして特技がなくても、気持ち一つで加わることができるのは演劇の大きな

魅力です」と語る植西さん。仲間と一緒に作り上げる公演が今から楽しみです。
活動場所 / 中部講堂
活動日 / 毎週月曜・水曜・土曜
メンバー数 / 13人

長崎大学チアリーディング部BERRIES

笑顔あふれるパフォーマンスを通して
技術が上達する喜びを分かち合う

軽快な音楽に、キレのあるダンスと明るい笑顔、そして目を奪われるアクロバティックな技の数々。長崎大学チアリーディング部BERRIESは、パフォーマンスとしてのチアリーディングに楽しく取り組んでいます。練習は柔軟体操から始まり、演技を構成する技を一つずつ確認。上に乗って立ち上がるトップと、下からトップを支えるベースの動きのタイミングを一致させることが重要で、コミュニケーションを取りな



がら息を合わせます。難易度の高い技ができた時の達成感は大きく、部員全員で喜びを分かち合います。学内や地域のイベントでパフォーマンスを発表する機会があり、選曲からダンス、演技構成まで、すべて自分たちで考案して完成度を高めていきます。そしてほとんどの部員が大学からのスタートで、部長の木村美優さんも高校までは弓道部だったそう。「大学では何か新しいことをしたくて、軽い気持ちで見学したら、先輩たちにびっくりするほど大歓迎されて(笑)。入部してもそのままの明るい雰囲気、一つの演目を作り上げるためにみんなで力を合わせています」。目標となるのは、毎年12月に行われる九州大会。技の難易度や表現力を追求しながら

がら息を合わせます。難易度の高い技ができた時の達成感は大きく、部員全員で喜びを分かち合います。学内や地域のイベントでパフォーマンスを発表する機会があり、選曲からダンス、演技構成まで、すべて自分たちで考案して完成度を高めていきます。そしてほとんどの部員が大学からのスタートで、部長の木村美優さんも高校までは弓道部だったそう。「大学では何か新しいことをしたくて、軽い気持ちで見学したら、先輩たちにびっくりするほど大歓迎されて(笑)。入部してもそのままの明るい雰囲気、一つの演目を作り上げるためにみんなで力を合わせています」。目標となるのは、毎年12月に行われる九州大会。技の難易度や表現力を追求しながら

曲に合わせてポーズをとり
息の合った技を披露！
お互いの信頼関係と
高い技術が必要です。



活動場所 / 総合体育館2階
活動日 / 毎週月曜・木曜・土曜
メンバー数 / 8人

読み手の声に意識を集中！
イメージ通りに札が
取れたときの快感が
クセになります。

「一人で見学して入部する学生が多い」と話す木場さん。おっとりしているように芯がある部員たちです。

競技かるた部

記憶と反応と駆け引きを駆使して
読み上げられた
百人一首の札を取り合う

静寂から一転、バンッと迷いのない動きで素早く札を取る部員たち。競技かるた部は、日々試合形式の練習で腕を磨いています。小さい頃に一度は触れる百人一首を用いた競技かるたは、

読み上げられた上の句を頼りに、相手よりも早く下の句の書かれた札を取りに行く競技。百人一首の歌を覚えることはもちろん、高い集中力と反射神経、そして相手との駆け引きも求められ

ます。25枚ずつ、合計50枚の札は自陣と敵陣に分けられます。並べられた札を見ながら、どの位置の札をどんな動きで取りに行くのか、入念にイメージトレーニング。試合展開に合わせて札の並びは刻一刻と変化するので、常に頭をフル回転させなければなりません。部長の木場夕紀音さんいわく「糖分が不足するので、終わった後はチョコなど甘いものが欲しくなります」とのこと。競技かるた部は木場さんが1年次の時に立ち上げた部活

で、今年は競技経験者の新入部員も多く、活動が盛り上がっています。「札を取った時の楽しさを、たくさんの人に味わってほしくて。今は部活が大きくなって、みんなで活動できることが一番うれしいです」と笑顔で語る木場さん。仲間と切磋琢磨しながら、競技としてより高いレベルを目指します。

活動場所 / 学生会館2階の和茶室
活動日 / 毎週火曜・金曜
メンバー数 / 28人



札の置き方や取り方、お手つきをした相手に送る札の選び方など、得意な句や状況に合わせた戦略が大切です。

